

民俗文化

第27号 近畿大学民俗学研究所

2015-7



民俗文化

第二十七号

①大間崎から北海道を望む
(青森県大間町、2005年9月、藤井撮影)



②大間崎
(青森県大間町、2014年11月、戸井田撮影)

大間崎は下北半島の先端にある本州最北端の岬である。ここの大間漁港はクロマグロの一本釣りで有名で、町内には多くのすし屋がある。写真では雲が垂れ込めているが、北海道は目と鼻の先で、定期フェリーが函館との間を90分で結んでいる。



③御神体として祀られるオサガメ
(青森県大間町材木、2005年9月、藤井撮影)

青森県ではウミガメの甲羅や剥製を御神体として祀る習俗が分布している。オサガメの剥製を御神体として祀る事例は全国的にも非常に珍しい。



④コンブ採り
(青森県風間浦村、2005年9月、藤井撮影)





⑤漁民の家

(青森県佐井村佐井、2005年9月、藤井撮影)

⑥仏ヶ浦

(青森県佐井村、2014年11月、戸井田撮影)

古くは仏宇陀(ウタはアイヌ語で「浜」の意)と呼ばれた海岸で、約2kmに渡って仏像を思わせる凝灰岩の奇岩が連なる。五百羅漢、十三仏、観音岩などがあり、かつては恐山詣でのついでに足を延ばすことも多かった。国の名勝と天然記念物に指定されている。



⑦初冬の寒立馬

(青森県東通村尻屋崎、2014年11月、戸井田撮影)

「寒立馬」は下北半島の「まさかりの柄」の先端にあたる尻屋崎一帯で放牧されている馬で、厳しい冬にも耐えるたくましい体格をもつ。粗食に耐え、持久力にも富む農用馬として重用されたが、1995年には9頭にまで激減した。その後の保護策が奏功し、現在は40頭まで回復している。寒立馬と生息地の双方が県の天然記念物に指定されている。

⑧路肩のスノーフェンス

(青森県東通村、2014年11月、戸井田撮影)

下北半島では、日本海岸と同様に冬の強風が激しく、しばしば地吹雪に見舞われる。そのため、雪の吹き溜まりがでるのを防ぐ手段として、東通村の国道338号線沿いには延々とスノーフェンスが設置されている。





⑨能舞

(青森県東通村大利、1978年1月、渡辺撮影)
1月3日の「門打ち」。集落内を廻る。

⑩能舞

(青森県東通村大利、1978年1月、渡辺撮影)
鈴木の三郎。



⑪恐山の極楽浜

(青森県むつ市、2014年9月、戸井田撮影)

恐山は下北半島の中央部に位置する外輪山の総称であり、かつ霊場の名である。霊場内には温泉が湧き、湯治場としても利用される。イタコの口寄せ（霊媒師による霊降ろし）は恐山例大祭で今も続けられている。写真は「極楽浜」と呼ばれる宇首利山湖畔の一角で、ここを賽の河原に見立てて小石や泥が積み上げられている。



⑫恐山大祭

(青森県むつ市、1973年7月、渡辺撮影)



⑬恐山大祭
(青森県むつ市、1973年7月、渡辺撮影)

⑭恐山大祭
(青森県むつ市、1973年7月、渡辺撮影)



⑮六ヶ所村次世代エネルギーパーク
(青森県六ヶ所村、2014年11月、戸井田撮影)
六ヶ所村は風力発電施設、原子燃料サイクル関連施設、石油備蓄基地などが集まる自治体で、「次世代エネルギーパーク」を標榜する村である。風力発電設備の「ウィンドファーム」は日本有数の規模をほこり、遠方に見える「むつ小川原国家石油備蓄基地」は備蓄量570万klで日本最大である。

⑯のへじ祇園祭り
(青森県野辺地町、1998年8月、渡辺撮影)
御座船を先頭に野辺地湾を走る大漁旗の漁船群。





⑰三沢航空科学館

(青森県三沢市、2014年11月、戸井田撮影)

三沢空港は航空自衛隊・アメリカ空軍・民間航空会社の三者が使用する共用空港である。1931年10月、世界初の太平洋無着陸横断飛行に「ミス・ビードル号」が飛び立ったのもこの町だった。写真は三沢空港そばの「大空ひろば」にある、大空と飛翔をモチーフにした飛行機博物館である。

⑱斗南藩記念観光村

(青森県三沢市、2014年11月、戸井田撮影)

斗南藩は、戊辰戦争に敗れた会津藩23万石が、お家取り潰し後まもなくして家名復興を許され、この地に設けた石高3万石の藩である。旧藩士とその家族1万数千人が移り住み、農耕、牧畜、各種手工業に動しんだ。写真は、旧会津藩士・広沢安任によって日本初の洋式牧場が開かれたことを記念したメモリアルパークである。



⑲蕪島

(青森県八戸市、2014年11月、戸井田撮影)

八戸市鮫漁港近くにある小島で、ウミネコ繁殖地として国の天然記念物に指定されている。「島」というものの、1942年に旧海軍の埋め立て事業で陸続きになった。「蕪」はかつて島に自生したノラナタネを俗に「蕪の花」と呼んだことに由来する。ウミネコは魚の居場所を知らせ、幸福をもたらすというので漁師から大切にされた。鎮座するのは蕪島神社である。

⑳八戸祭り

(青森県青森市、1987年8月、渡辺撮影)

騎馬打球。





⑳墓念仏（花和讃）

（青森県階上村、1974年8月、渡辺撮影）

初盆を迎える墓前で読経。花和讃。

㉑さんのへ祭り

（青森県三戸町、1978年9月、渡辺撮影）

神幸行列。



㉒善知鳥神社境内の謡曲「善知鳥」の碑

（青森県青森市安方、1999年5月、藤井撮影）

謡曲「善知鳥」は世阿弥の作。ウトウという鳥を殺して生活していた獵師が、死後、地獄においてウトウに追い責められる。僧侶に助けを求め、獵師の霊は姿を消す。謡曲「善知鳥」の史蹟ということで、善知鳥神社境内に碑が建てられている。

㉓青森ねぶた

（青森県青森市、1971年ごろ8月、渡辺撮影）





②⑤津軽半島から下北半島を望む
(青森県今別町、2014年8月、藤井撮影)

②⑥ニシンの親方の家
(青森県今別町巽月、2014年8月、藤井撮影)



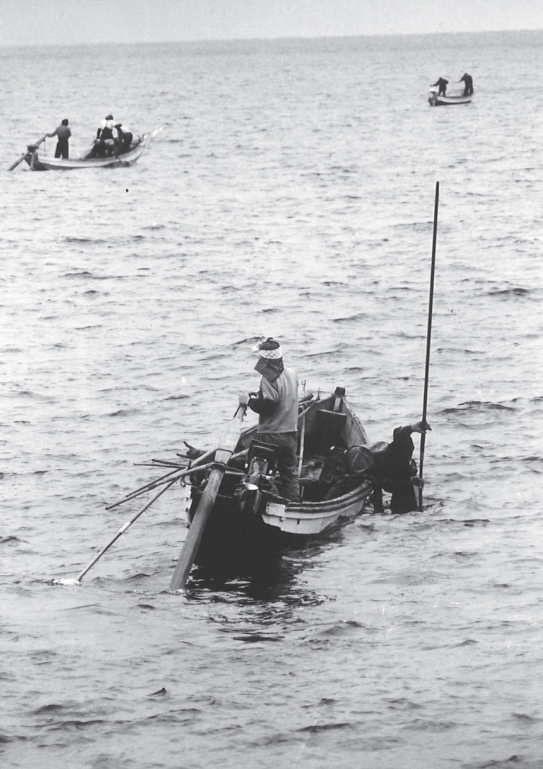
②⑦サル除けのネットをした畑
(青森県今別町巽月、2014年8月、藤井撮影)

②⑧龍飛崎の階段国道
(青森県外ヶ浜町、2014年9月、戸井田撮影)

弘前市と外ヶ浜町を結ぶ国道339号線は、龍飛崎付近で区間の一部が歩行者専用道となる、全国でも唯一の国道である。歩行者専用区間は362段の階段になっていて、「階段国道」とも呼ばれる。この区間の延長は388m、標高差は約70mあり、龍飛崎の険しい地形を物語っている。



⑳ 竜飛崎のイカ・タコ漁
(青森県外ヶ浜町三厩、1968年1月、渡辺撮影)



㉑ 竜飛崎の磯海苔採り (青森県外ヶ浜町三厩、1968年1月、渡辺撮影)



③① 竜飛崎の冬

(青森県外ヶ浜町三厩、1968年1月、渡辺撮影)

茹であげたタコを箱に入れ、天然の冷蔵庫「路上」で冷やす。



③② 竜飛崎の冬

(青森県外ヶ浜町三厩、1968年1月、渡辺撮影)

和讃を唱えて歩く寒行のお婆さんたち。

③③ 三厩の港 (青森県外ヶ浜町、2014年8月、藤井撮影)





③④七つ滝

(青森県中泊町小泊、2014年8月、藤井撮影)

津軽半島の北端近くの海岸にある。竜飛崎から小泊に向う国道339号線から眺められる。

③⑤集落

(青森県中泊町小泊、2014年8月、藤井撮影)

津軽半島の日本海側で北端に位置する集落である。



③⑥十三湖で採ったシジミ

(青森県五所川原市十三、2014年8月、藤井撮影)

十三湖は岩木川の河口部に位置する汽水湖。周囲は30km、水深は最大で1.5m。シジミが特産物となっている。

③⑦シジミ漁の船

(青森県五所川原市十三、2014年8月、藤井撮影)





③⑧ 十三湖と十三地区

(青森県五所川原市十三、2014年8月、藤井撮影)

③⑨ 防風柵

(青森県五所川原市十三、2014年8月、藤井撮影)



④⑩ 五所川原夏祭り

(青森県五所川原市、1977年8月、渡辺撮影)

五穀豊穡を祈り、害虫昇天の儀式として盛大に行われる。高さ15メートル。当時としては祭りのハイライト。空に花火。

④⑪ 高山稲荷神社

(青森県つがる市牛淵、2014年8月、藤井撮影)

津軽半島の七里長浜近くの丘の上に鎮座する。五穀豊穡、海上安全、商売繁盛などの神として知られており、遠方からも参詣者が多い。





④② お山参詣（青森県弘前市、1973年旧暦8月、渡辺撮影）
霊峰岩木山に五穀豊穡と家内安全を祈願する。



④③ お山参詣
（青森県弘前市、1973年旧暦8月、渡辺撮影）
津軽地方最大の秋祭りとして大勢の人で賑う。



④④ 盆の送り火
（青森県弘前市高杉、2014年8月、藤井撮影）



④5 たんぼアート

(青森県田舎館村、2014年8月、藤井撮影、

©長谷川町子美術館)

平成5年(1993)に村おこしの事業として田舎館村で始められた。最初は稲作体験ツアーの一環として、色の違う稲を植えて稲文字を作ったが、次第に芸術性が高くなっていき、緻密な絵を描くようになった。平成26年(2014)は22回目。現在は2つの会場でおこなわれている。写真は第2田んぼアートで、図柄はサザエさん。第2田んぼアートは道の駅いなかだて「弥生の里」敷地内にある弥生の里展望所から観覧できる。毎年、6月から10月にかけておこなわれている。

④6 岩木山

(青森県田舎館村、2014年8月、藤井撮影)



④7 田舎館村から弘前市内を望む

(青森県田舎館村、2014年8月、藤井撮影)

④8 猿賀神社

(青森県平川市、2014年8月、藤井撮影)

猿賀神社の社叢林には、かつてアオサギ・ゴイサギ・カワウが営巣していた。昭和10年(1935)から昭和59年(1984)まで「猿賀の鶉及び鶯蕃殖地」として国の天然記念物に指定されていたが、鳥の糞などにより樹木が枯死するという問題が起こっていた。





④9 ねぶた (青森県黒石市、1977年8月、渡辺撮影)
 ねぶたの型は青森型「人形ねぶた」と弘前型「扇型」の混在で、一回り小型ながら数は多くにぎやかに練る。



⑤0 奥入瀬溪流

(青森県十和田市、2014年9月、戸井田撮影)
 十和田湖畔の子ノロから焼山まで約14km 続く奥入瀬川の溪流である。十和田八幡平国立公園に属し、国の特別名勝と天然記念物になっている。溪流沿いにはいくつもの滝が点在し、マイナスイオンが周囲の森を取り巻く。遊歩道も整備されていて、新緑や紅葉の季節には観光客でにぎわう。

⑤1 十和田湖

(青森県十和田市、2014年9月、戸井田撮影)
 十和田市と秋田県小坂町にまたがる湖で、写真は十和田神社付近から撮ったもの。2,000年前の火山活動でできた典型的なカルデラ湖であり、対岸に見えるのは外輪山である。湖面の標高は400m、周囲46km、最深部3,278mの湖で、流出河川は奥入瀬川。十和田八幡平国立公園にある。





せんじょうじき
⑤②千畳敷

(青森県深浦町、2014年9月、戸井田撮影)

寛政四年(1792)の大地震で海底が隆起し、水面に現れたのが千畳敷である。かぶと岩、潮吹き岩など多くの奇岩がみられる。その昔、弘前藩主がここに千畳の畳を敷き、二百間の幕を張って風景を楽しんだことからこの名がついた。町指定の名勝になっている。

⑤③深浦の港

(青森県深浦町、2014年8月、藤井撮影)

江戸時代、北前船の寄港地として栄えた。



⑤④円覚寺の門と龍灯のスギ

(青森県深浦町深浦、2014年8月、藤井撮影)

江戸時代、北前船の船乗りたちは、暴風雨に見舞われたとき、自分の鬻を切って折ると、このスギから光(龍灯)が放たれて方角が分かったという。助かった船乗りたちは、円覚寺に鬻を奉納した。龍灯スギは深浦町指定天然記念物。

⑤⑤水田

(青森県深浦町、2014年8月、藤井撮影)





⑤6 棒山

(青森県深浦町、2014年8月、藤井撮影)

深浦町指定天然記念物。日本海側のツバキ自生北限地になる。

⑤7 かしま祭り

(青森県深浦町大間越、1976年6月、渡辺撮影)

豊作祈願の虫おくり祭り。



⑤8 かしま祭り

(青森県深浦町大間越、1976年6月、渡辺撮影)

稲の害虫に悪霊や疫病の害も象徴して諸悪を託した人形を、舟とともににぎやかに囃して水平線の彼方へ送る。

⑤9 十二湖・沸壺の池

(青森・秋田県境、2014年9月、戸井田撮影)

十二湖は世界遺産・白神山地の一角に点在する33の湖沼群の総称。1704年の能代地震にともなう崖崩れで川が堰き止められてできた。「十二」は、大崩(崩山の八合目)から見ると湖沼が12見えることに由来する。沸壺の池はエメラルドグリーンをしており、近くの青池とは色が違って見える。





⑩花輪ばやし（秋田県鹿角市、1979年8月、渡辺撮影）
古くから金山、銅山で栄えたところだけに飾りの華麗な山車
が勢揃い。日本三大囃子を一齐にかなでる。

⑪能代のねぶ流し（秋田県能代市、1978年8月、渡辺撮影）
子ども参加で市中を引き回し米代川へ流し、夏の息災を祈る。





⑥2 神輿の滝浴び（秋田県八峰町、1971年8月、渡辺撮影）
村中を鎮守の神輿を担いで駆け、滝浴びをする。滝には慈覚
大師が彫ったという不動尊を祀る。

⑥3 神輿の滝浴び（秋田県八峰町、1971年8月、渡辺撮影）





⑥4 竿灯
(秋田県秋田市、1976 年ごろ 8 月、渡辺撮影)



⑥5 竿灯妙技大会
(秋田県秋田市、1999 年 8 月、藤井撮影)



⑥6 ぼんでん
(秋田県秋田市、1974 年ごろ 1 月、渡辺撮影)



⑥7 久保田城御物頭御番所
(秋田県秋田市千秋公園、2014年8月、胡桃沢撮影)

⑥8 佐竹氏御霊屋
(秋田県秋田市天徳寺、2014年8月、胡桃沢撮影)



⑥9 菅江真澄の墓
(秋田県秋田市寺内、2014年8月、胡桃沢撮影)

⑦0 旧雄物川
(秋田県秋田市土崎、2014年8月、胡桃沢撮影)





⑦ 菅原神社

(秋田市八橋本町、2014年9月9日、網撮影)

五代藩主佐竹義峯によって現在地に遷座した。文筆の神である菅原道真公を祀り、境内には筆塚など近世の庶民教育を知る石碑が多く建てられている。

⑦② 八橋人形天神像

(秋田市金足嶋崎、2014年9月9日、網撮影)

秋田県立博物館が所蔵する八橋人形の天神(大)である。男の子が生まれると各家で天神人形が飾られたという。



⑦③ 北緯40°のモニュメント

(秋田県男鹿市入道崎、2014年9月、戸井田撮影)

男鹿半島の先端にある入道崎がちょうど北緯40°にあることから、それを示した安山岩のモニュメント。数個の巨石が一直線に並んでおり、巨石どうしを結ぶと北緯40°の線になる。入道崎は男鹿国定公園にあり、岬から眺める夕陽は「日本の夕陽百選」に選ばれている。

⑦④ 戸賀湾と二ノ目湯

(秋田県男鹿市、2014年9月、戸井田撮影)

男鹿半島の先端には東から順に一ノ目湯、二ノ目湯、三ノ目湯という三つの湖沼がある。いずれも日本ではここだけに存在する爆裂火口(マール)に水がたまった火口湖である。写真は「八望台」からの眺めで、手前が二ノ目湯、奥が戸賀湾。戸賀湾も爆裂火口とする説がある。





⑦⑤なまはげ柴灯祭

(秋田県男鹿市、1972年ごろ2月、渡辺撮影)

真山神社境内。山から下りてきた鬼は跳び走り、
村人をおどして暴れる。

⑦⑥なまはげ太鼓

(秋田県男鹿市、2014年9月、戸井田撮影)

男鹿半島に古くから伝わる民俗行事「なまはげ」
にちなみ、地元の若者たちが伝説の一筋から創作し
た新しい和太鼓である。男鹿温泉郷を中心に活動す
る太鼓グループ「恩荷^{おんが}」が定期公演している。情熱
的なバチさばきと突き上げる鼓動は圧巻である。



⑦⑦白岩

(秋田県男鹿市椿、2014年9月、胡桃沢撮影)



⑦⑧北限の椿林

(秋田県男鹿市椿能登山、2014年9月、胡桃沢撮影)





⑦9 八郎潟

(秋田県男鹿市船越、2014年9月、胡桃沢撮影)

⑧0 折口信夫最北の歌碑

(秋田県男鹿市船川大龍寺、2014年9月、胡桃沢撮影)



⑧1 出戸北野神社

(秋田県潟上市天王上出戸、2014年9月9日、網撮影)

八橋の羽州街道沿いに遷座された菅原神社の旧社地。現在でも八橋人形の天神像が多く奉納されている。

⑧2 くも舞い

(秋田県潟上市天王町、1976年7月、渡辺撮影)

豊作、豊漁、悪霊退治と祈願する祭り。





⑧③牛乗り神事

(秋田県潟上市天王町、1976年7月、渡辺撮影)

⑧④はだか祭り

(秋田県由利本荘市、1974年1月、渡辺撮影)

水垢離をとり、雪の中、山頂の神社へ供物を担いで行く。



⑧⑤ぼんでん

(秋田県大曲市、1974年ごろ2月、渡辺撮影)

冬の川を渡し舟で対岸の神社へぼんでんを運ぶ。
北国の冬らしい詩情豊かで知られる。



⑧⑥六郷の竹打ち

(秋田県美郷町六郷町、1974年1月、渡辺撮影)

ヘルメット・防寒具・手袋の装備で青竹を振り上げ、竹と竹で打ち合う。パシッという音が広場に響く。



⑧7 飾山ばやし

(秋田県仙北市角館町、1979年ごろ9月、渡辺撮影)
山車と山車の激突で夜が更ける。

⑧8 火振りかまくら

(秋田県仙北市角館、1985年ごろ2月、渡辺撮影)



⑧9 角館石黒家

(秋田県仙北市角館、2014年9月7日、網撮影)
佐竹北家に仕えた角館でも最も格式の高い武家屋敷。嘉永二年作の彩色木彫天神像のほか、八橋人形の古い天神像を多く所蔵している。

⑨0 角館石黒家所蔵の八橋人形天神像

(秋田県仙北市角館、2014年9月7日、網撮影)



八橋人形
おぼはたさま
おんから、庶民に親しまれて
大座です。
大神様の他に、お雛様
などもありませう。



⑨1 横手市遠景

(秋田県横手市駅前町、2014年9月6日、網撮影)
線路脇にある手前の和風の建物が樋渡人形店。
左手後方の丘陵地に中山窯が所在した。

⑨2 工房での樋渡徹氏

(秋田県横手市駅前町、2014年9月6日、網撮影)
昭和54年に中山人形の土鈴羊が年賀切手の図案
となったことはよく知られており、平成27年正月
には年賀記念切手として再び土鈴羊が採用された。



⑨3 中山人形内裏雛

(秋田県横手市雄物川町沼館、2014年9月6日、網撮影)
雄物川郷土資料館が所蔵する中山人形の内裏雛
である。底部の口絵でもわかるように、表裏の接
合部を内面から調整し、底部に和紙を貼っている。

⑨4 中山人形女雛の底部

(秋田県横手市雄物川町沼館、2014年9月6日、網撮影)





⑨5 横手ぼんでん
(秋田県横手市、1974 年ごろ 2 月、渡辺撮影)

⑨6 保呂羽山霜月神楽
(秋田県横手市大森町、1975 年 11 月、渡辺撮影)



⑨7 犬っこ祭り
(秋田県湯沢市、1974 年ごろ 2 月、渡辺撮影)



⑨8 西馬音内盆踊り
(秋田県羽後町西馬音内、1974 年 8 月、渡辺撮影)



99 雪中田植

(秋田県横手市平鹿町、1969年1月、渡辺撮影)

五穀豊穰と祈る予祝行事。



100 雪中田植 (秋田県横手市平鹿町、1969年1月、渡辺撮影)





⑩^{くじ}久慈駅・駅前デパート

(岩手県久慈市、2014年11月、戸井田撮影)

NHKの朝ドラ「あまちゃん」の舞台としてたびたび登場した建物である。向かいにはJR東日本八戸線と三陸鉄道北リアス線の駅舎があり、北の八戸駅と南の宮古駅にそれぞれ向かう始発駅である。北リアス線は2011年3月の東北地方太平洋沖地震で全線不通となったが、2014年4月、小本一田野畑間の復旧をもって全線が復旧した。

⑩盛岡市街を流れる北上川

(岩手県盛岡市、2012年8月、戸井田撮影)

北上川は岩手県北部に水源を発し、盛岡市、花巻市、一関市などを南流したあと、宮城県に入って石巻市で仙台湾に注ぐ。全長は249kmで、日本海側の最上川より20km長い。盛岡市までサケが遡上するという。「やわらかに柳をめる 北上の岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに」は、盛岡から東京に出て間もない石川啄木が、写真付近の北上川を懐かしんで詠んだものである。



⑩イギリス海岸

(岩手県花巻市、2012年8月、戸井田撮影)

大正15年(1926)3月、花巻農学校を依願退職した宮沢賢治は、「イギリス海岸」と自ら名づけた北上川ほとりの一隅で独居自炊の農耕生活に入った。有名な「雨ニモマケズ」はここで理想の生活を追い求めるなか書きとめられたものである。

⑩作品に囲まれて語る平賀恵美子氏

(岩手県花巻市桜町、2014年9月8日、網撮影)

平賀工藝舎では昭和34年に途絶えた花巻人形を昭和49年に復興し、苦勞の末にその伝統を継承された。





⑩⑥ 北上市立博物館所蔵の花巻人形

(岩手県北上市立花、2014年9月13日、網撮影)

江戸時代から継承された花巻人形の最後の製作者である照井トシ氏の資料は、現在は北上市立博物館に寄贈・保管され、展示を通して一般にも公開されている。

⑩⑥ 日浄寺山門

(仙台市青葉区堤町、2014年9月12日、網撮影)

堤町の奥州街道沿いにある日蓮正宗の寺院。堤焼き関係の檀家が多く、山門脇には堤焼きの始祖とされる上村万右衛門の墓碑が記られている。



⑩⑦ 堤町天神社

(仙台市青葉区堤町、2014年9月12日、網撮影)

天神社に祀られている天神像を原型として、上村万右衛門が土人形の型をとったと伝えられている。

⑩⑧ 三番叟を彩色中の芳賀強氏

(仙台市青葉区堤町、2015年4月19日、網撮影)

芳賀家は江戸時代から継承される堤人形の伝統を守り続けてきた。現当主の芳賀強氏にお話を伺うと、堤人形に対する熱い思いが伝わってくる。





⑩ 塙人形「政岡」の工程

(仙台市青葉区堤町、2014年9月12日、網撮影)

手前にあるのが土型で、左から型から抜いて調整した段階、乾燥させた段階、焼成した段階、下地の胡粉を塗った段階、着物の彩色を行った段階、完成した人形である。

⑪ 塙人形「子抱き」(つつみ人形製造所所蔵)

(仙台市青葉区堤町、2014年9月11日、網撮影)



⑪ 「子抱き」の底部

(仙台市青葉区堤町、2014年9月11日、網撮影)

底部が開いており、内側まで胡粉が塗られている様子がよくわかる。



⑫ 「鯉つかみ」と「三番叟」の底部

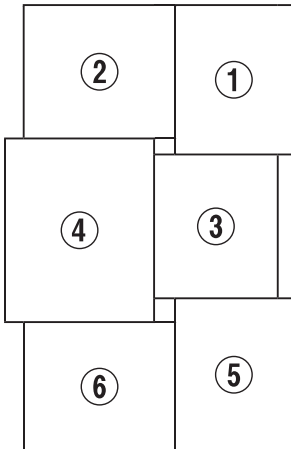
(仙台市青葉区堤町、2014年9月11日、網撮影)

粘土板で底部を貼る塙人形では新しい技術で、前当主の芳賀佐五郎氏が井浦狂阿弥に師事して考案したものである。



⑫ 塙人形「鯉つかみ」と「三番叟」(つつみ人形製造所所蔵)

(仙台市青葉区堤町、2014年9月11日、網撮影)



表紙

①恐山大祭

(青森県むつ市、1973年7月、渡辺撮影)

②竜飛崎の冬

(青森県外ヶ浜町三厩、1968年1月、渡辺撮影)

③大日堂舞楽

(秋田県鹿角市八幡平、1975年1月、渡辺撮影)

④お山参詣

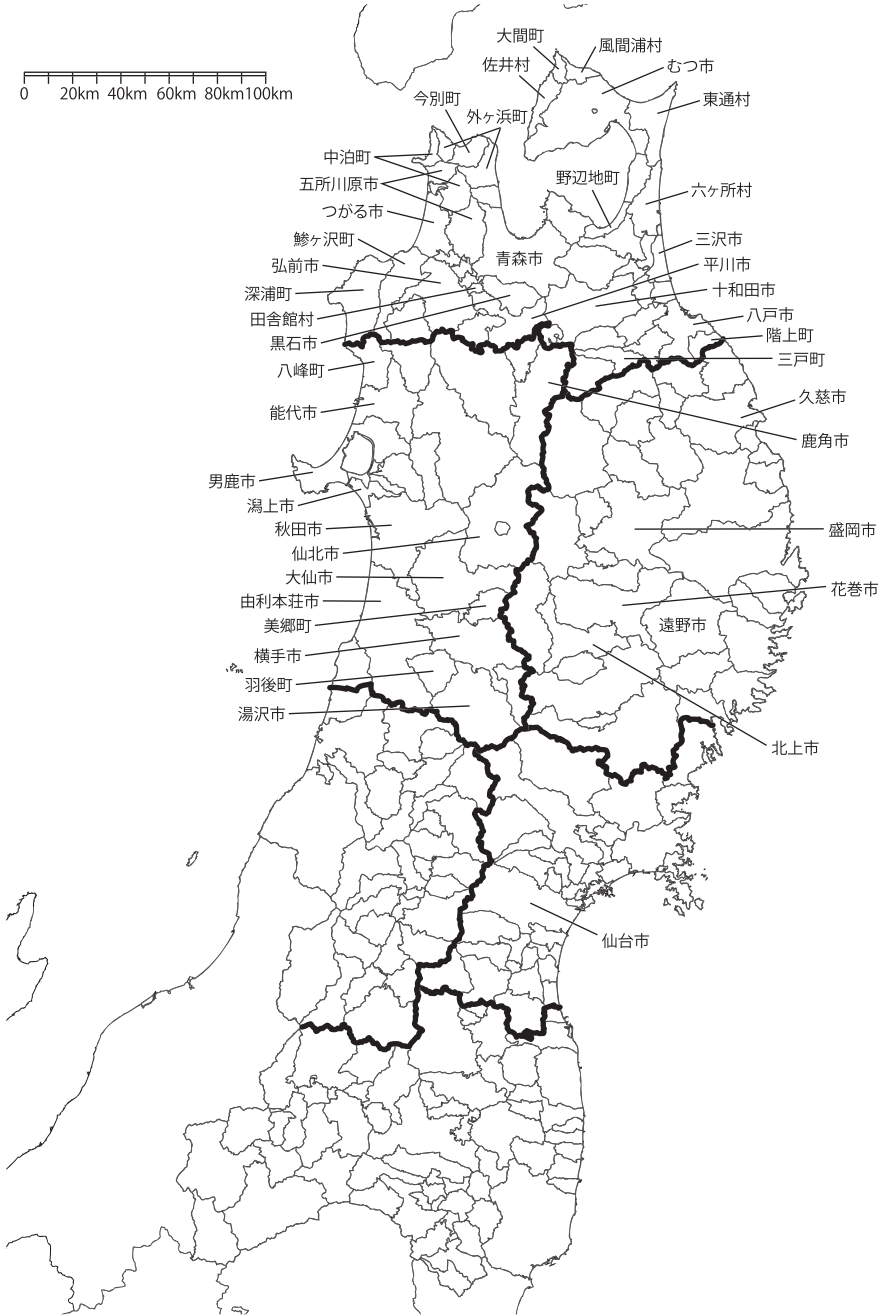
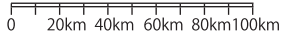
(青森県弘前市、1972年旧暦8月、渡辺撮影)

⑤なまはげ

(秋田県男鹿市、1969年12月、渡辺撮影)

⑥かまくら

(秋田県横手市、1970年2月、渡辺撮影)



表紙・口絵写真 東北の民俗……………

胡桃沢 勘司
戸井田 克己
網 伸也
藤 井 弘章
渡 辺 良正

目 次

東北の民俗

「間」と呼ばれた港 — 秋田藩の船川港 — ……………

胡桃沢 勘司 1

北東北・風の民俗 — 風にまつわる生活と文化 — ……………

戸井田 克己 33

東北地方の土人形の系譜と伝承 ……………

網 伸也 83

猿賀神社社叢林におけるアオサギ・ゴイサギ・カワウの被害と対応

— 天然記念物「猿賀の鵜及び鷺蕃殖地」の苦悩 — ……………

藤 井 弘章 119

青森県のウミガメの民俗

— 江戸時代の流木と現在の甲羅・剥製祭祀習俗を中心に — ……………

藤 井 弘章 173

松本重太郎社長時代における山陽鉄道の西進過程と全通について

——地域社会の動向と利害関係者の思惑とを関わらせて——

井田 泰人 237

全国主要神社の龍について

橋口 尚武 265

書評と紹介

近畿大学構内遺跡学術調査の紹介(二)

藤田 義成 315

付 録

民俗学研究所第二六回公開講演会

民俗学はおもしろい——食、そして人と自然——(要旨)

野本 寛一 321

執筆者紹介

投稿規程

329 327

東北の民俗

書評と紹介

執筆 者 紹 介 — 生年・出身地・現職・著作 —

野本寛一（のもと かんいち） 一九三七年、静岡県生まれ。近畿大学名誉教授。『暮らしの伝承知を探る』（共著、玉川大学出版部、二〇一三年）『自然災害と民俗』（森話社、二〇一三年）、『自然と共に生きる作法』（静岡新聞社、二〇一二年）、『地霊の復権 自然と結ぶ民俗をさぐる』（岩波書店、二〇一〇年）ほか。

胡桃沢勘司（くるみさわ かんじ） 一九五一年、長野県生まれ。近畿大学文芸学部教授・同民俗学研究所所長。『西日本庶民交易史の研究』（文献出版、二〇〇〇年）、『牛方・ボッカと海産物移入』（岩田書院、二〇〇八年）、『近世海運民俗史研究―逆流海上の道―』（芙蓉書房出版、二〇一二年）ほか。

戸井田克己（といだ かつき） 一九六〇年、東京都生まれ。近畿大学総合社会学部教授・同民俗学研究所所員。『武蔵村山市史 民俗編』（共編、ぎょうせい、二〇〇〇年）、『日本の内なる国際化』（古今書院、二〇〇五年）、『近畿を知る旅』（八分担執筆、ナカニシヤ出版、二〇一〇年）、『高校生の新地理A』・『新詳地理B』（共著、帝国書院、二〇一五年）ほか。

網伸也（あみ のぶや） 一九六三年、大阪府生まれ。近畿大学文芸学部教授・同民俗学研究所所員。『平安京造営と古代律令国家』（塙書房、二〇一一年）、『経塚考古学論攷』（共著、岩田書院、二〇一一年）、『仁明朝史の研究―承和転換期とその周辺―』（共著、思文閣出版、二〇一一年）ほか。

藤井弘章（ふじい ひろあき）一九六九年、和歌山県生

まれ。近畿大学文学部准教授、同民俗学研究所所

員。『熊野川町史 通史編』（共著、和歌山県新宮市、

二〇〇八年）、『丹生都比売神社史』（共著、丹生都比売

神社、二〇〇九年）、『人と動物の日本史』四（共著、

中村生雄・三浦佑之編、吉川弘文館、二〇〇九年）、『高

野町史 民俗編』（共著、高野町、二〇二二年）ほか。

井田泰人（いだ よしひと）一九六九年、大阪府生ま

れ。近畿大学短期大学部教授。『大手化粧品メーカーの

経営史的研究』（晃洋書房、二〇一二年）、『熱き男たち

の鉄道物語』（共著、ブレーンセンター、二〇一二年）、

『歴史に学ぶ経営学』（共著、学文社、二〇一三年）ほ
か。

橋口尚武（はしぐち なおたけ）一九三七年、鹿児島県

生まれ。南九州地域文化研究所所員。『島の考古学 ―

黒潮圏の伊豆諸島―』（東京大学出版会、一九八八年）、

『黒潮の考古学』（同成社、二〇〇一年）、『食の民俗考古

学』（同成社、二〇〇六年）ほか。

藤田義成（ふじた よしなり）一九五九年、鹿児島県生

まれ。近畿大学文学部事務部（民俗学研究所）職員。

『東広島ニュータウン遺跡群新住西一・四地点遺跡調査

報告書（一九九二年）』、『小若江遺跡第六次発掘調査報

告書（二〇一〇年）』ほか。

渡辺良正（わたなべ よしまさ）一九三三年、福岡県

生まれ。毎日新聞東京本社出版写真部（一九六四―

六六年）勤務後フリーとなり、日本国内の祭り、神事

芸能、民俗芸能の取材に専念。現在、日本写真家協会

会員、民俗芸能学会評議員。主たる写真集に、『椎葉

神楽』（平河出版社、一九九六年）、『沖繩先島の世界』

（木耳社、一九七二年）、『日本の祭り 山車と屋台』

（サンケイ新聞社、一九八〇年）、など。

民俗文化 投稿規程 (平成二十二年十月)

一、投稿できる者は、近畿大学民俗学研究所々員および同所員より推薦を受けた者とする。

二、刷り上がりは、A五判・縦書き、一ページあたり五十一字×十九行を原則とする。原稿執筆にあたっては、できる限り、刷り上がりに合わせて字数設定を行うものとする。

三、投稿の締切日は、毎年二月末日とする。原稿は、原則として、電子記憶媒体(CD等)を添えて編集委員に提出する。

四、別刷は五十部を無料とする。

五、刊行後の報文(論文、研究ノート、書評、写真及び写真解説等)は、その著作権が近畿大学民俗学研究所に帰属する。ただし、著作者本人による転載等をさまざまにあげるものではない。

六、刊行後の報文(論文、研究ノート、書評、写真及び写真解説等)は、冊子体以外の媒体(近畿大学学術情報リポジトリ等)で公開されることを承諾のうえ投稿

すること。ただし、電子媒体での公開に際しては、著者本人もしくは話者の意向等により、一部または全部を非公開とすることがある。

近畿大学民俗学研究所

民 俗 文 化 第 27 号

平成 27 年 7 月 31 日印刷

平成 27 年 7 月 31 日発行

編集・発行者 近畿大学民俗学研究所

〒577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

電 話 (06) 6721-2332

印 刷 所 近畿大学 管理部 用度課



近畿大学

KINKI UNIVERSITY